

ネパールの環境 改善したい 現地と日本の学生ら 三島で意見交換



ネパールの環境問題をテーマに意見交換する学生ら＝三島市で

日本の高校・大学生らとネパールの学生が十四日、三島市本町の三島市民活動支援センターでネパールの環境問題をテーマに意見交換した。

三島市のNPO法人グラウンドワーク三島が企画した。日本側は知徳高校(長泉町)の生徒や都留文科大(山梨県都留市)の学生ら二十人、ネパール側は大学生十一人が参加した。

ネパールの学生は大気や地下水の汚染、電力不足といった問題を説明し、現地で「環境への意識が低い」と語った。日本の学生らは「幼いころからの教育や地域の自然に対する愛着が重要だ」と問題解決の手掛かりを説いた。

ネパールの学生たちは「日本人のようにチームワーク良く頑張って(カトマンズを流れる聖なる川の)

バグマティ川をきれいにしたい」「自分が行動を起こさないと現状は変わらないことが分かった」と感想を話した。

ネパールの学生たちは九日に来日し、三島市の源兵衛川を清掃するなど環境保全について学び、富士山に登った。山梨県を訪れた後、二十日に帰国する。

(佐久間博康)